

一瞬の演技に自分の色を

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52)―草津市①

はい上がる人

わたしの歩跡

ばんばんの袋が30袋あったり、トラックに載せるだけでも、どれだけしんどいねん。このバイトが一番きつかったですね。

▲撮影所でも全開だ▼

「ママ、ごめんやけど、3年、死に物狂いでやるから」

▲29歳だった1995年に会社を辞める際、妻桂子さん(当時26歳)に約束をした。「①これまでと同じ額(二十数万円)を家に入れる②期限は3年」。大部屋俳優から本物の俳優へ。無謀な挑戦が始まった。まずは生活費稼ぎからだ▼

撮影所の日当は6500円だったんで、撮影がない日に朝から晩まで働くんです。テニスのコートをしていた守山市のホテルに「働き口ないでしょうか」って聞いて、早朝5時に行って皿洗いのバイトから。昼は別の

部署で働き、夕方からはカラオケボックス、夜はテニスのコート。人材派遣会社に登録して「8時、草津駅で」。バスで運ばれ、松下電器(現パナソニック)の冷蔵庫のラインに入り、表のバックンをハンマーでたたいてはめ込む。次の日は裏のコイルをひっつけて。「将来、松下のCMに絶対出たろ」って悔しさを紛らわせてましたね。

ホテルやら老人ホームやらのシートやタオルの入れ替えもしました。朝5時から4トトラックに綺麗に積まないといけないんです。回収したやつを、このスペースに詰め、これを出して

「大部屋一本になりましたから」って監督やらに声を掛けて。監督が「誰でもいいから、役振っとけ」って言ったら、助監督が「土平やるか」。やりませう。「二言やで」「全然いいです」。いい仕出し(エキストラ)や役をくれるようになって。役付くと、ワンカットは撮ってもらえたり、一言のセリフがあったり。名前が出る、台本ももらえる。これを俳優やわ。

▲先輩に鍛えられた▼

上下関係が厳しくてですね。何十年もいるベテランの人は、相手が助監督でも呼び捨てです。大工が向こうから走って



東京テレビの時代劇の12時間超ワイドドラマで、仕出しとして武將を演じた11いずれも本人提供

早朝からバイトの嵐



松竹京都撮影所のオープンセットでの一コマ

くるテストを見て、「土ちゃん、そんな道具箱の持ち方あらへん」って。「この時代はな、こうでこうで」って、時代考証やら所作とか、指摘して。長年、映画界では正解ってなってる。それやったら、誰がやっても一緒やと思うんですけど、先輩方は「それが仕出しの仕事や、違うことは、役の人かしたらええ」っておっしゃって。

僕は「そうですね」って言いながら、やったもん勝ちって、本番で違うことやるんです。慣れてくると、「こんなことをしたいんですけど」って助監督に提案しました。「いらん、いらん、せんでもええ」って言われても、たまにこっそりやっ

たるんですわ。行商だったら荷物置いて背伸びをする。行商のしんどさが伝わるやん。絵の中で絶対必要や。より深くなるやん。「こんなことあっても、おかしくないと思うんですけど」ってよう提案してましたね。▲次への扉をこじ開けるきつかけとなる出来事があった▼

仕出し一本になって1年、役が付き出した頃に、関西で人気のあったVシネマ「ミナミの帝王」がたまたまテレビで流れていて、最後にオーディションのお知らせが出たんですよ。これや〜と思って、1万円を払って応募したんです。

【編集部・大澤重人】
11つづく、水曜掲載

「俳優」に仲間入り?

ドンペイさんがフェイスブックで発信中。前回ツーショット写真を掲載した俳優の本

田博太郎さんについて「私達夫婦は『俳優』とよんでます。もちろん大ファンです! ドンペイさんももうすぐ俳優の仲間入りかな」とのコメントが寄せられました。本田さんは「ドンペイちゃんが良くなることならいいよ!」と写真の掲載を快諾してくれました。